

各職員に転送または、配布をお願いします。

---

目次

[ 最新情報 ]

メンター

[ 募集します！ ]

平成 18 年度政策研究発表会参加者募集中！

平成 18 年度政策課題共同研究 研究員再募集

e シンキング投稿募集

[ 政策研究の紹介 ]

研究報告書の紹介 「行政が変わる！学校が変わる！」

[ 私の選んだこの 1 冊 ]

日経スペシャル「ガイアの夜明け」闘う 100 人

テレビ東京報道局 = 編 日本経済新聞社

[ みてきたゾウ・つたえるゾウ！！ ]

第 3 回 聖学院大学都市経営シンポジウム

『新しい公共と公務員改革を問う』

---

[ 最新情報 ]

メンター

人事院より、「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する指針」に基づき「メンターの導入の手引き」が作成され、埼玉県及び各市町村に参考として通知及び資料が送付された。

それによると、一般に職場では、上司と部下のような公式の関係のほか、職場の先輩・後輩のような私的な人間関係の中で、先輩が後輩に対して、目標となる人物像（ロールモデル）となっていたり、仕事の悩みや職員の職業生活形成（キャリア形成）について助言、指導したりする例が見られる。後輩にして

みれば、職場における自己のキャリア形成に資するものであり、人材育成の観点からは職員の成長が期待される。

公務でもこうした関係が自然に機能している組織であれば、職員相互の私的関係に委ねてもよいと考えられるものの、例えば女性職員数が少ないなどの理由により、先輩後輩の関係の中でキャリア形成しにくい状況においては、人事当局が一定の役割を担う仕組みが有効な場合もあると考えられる。

民間企業の中には、既にこの先輩・後輩の私的関係が生み出す効果に着目し、これに人事制度上の位置づけを（先輩ではなく「相談者」として）与える仕組みを設けて、職員の育成のために活用しているところもある。

「メンター」とは、上記でいうところの先輩にあたるが、メンターを設ける仕組みそのものを指すことが多い。後輩を「メンティー」、先輩がメンターとして後輩の相談を受けて助言・指導を行うことを「メンタリング」、実際に面談して相談を行うことを「メンタリング相談」ということにしている。最終的には、メンタリング相談を通じて、メンティーのキャリア開発の意欲や意識改革を促すことにより育成を図り、ひいては女性の登用の促進に資することなどを目標としている。

今回の通知内容によると、基本的にメンターという仕組みは女性職員の採用・登用拡大に向けた一つの手法と位置づけられていたが、この仕組みは女性職員に限らず、例えば経験年数の浅い職員を対象にするものであっても良い。こうした仕組みが、個々の職員の、仕事に対する意識改革を促すきっかけになればと期待される。（Ｂ）

-----  
[ 募集します！ ]

平成 18 年度政策研究発表会参加者募集中！

現在、平成 18 年度政策課題共同研究・行政課題研究発表会の参加者を募集しております。まだ座席に余裕がありますので、奮ってご参加下さい。なお、参加希望の方は下のリンク先の様式でお申し込みください。

日時 平成 18 年 5 月 29 日（月） 10：30～16：30

会場 CORSO（コルソ）ホール（浦和駅西口 CORSO 7 階）

内容 （１）平成 17 年度政策課題共同研究（３テーマ）及び行政課題研究  
（１テーマ）の成果発表

（２）基調講演

テーマ：「構造改革時代の地方行政」

講師：鳥取大学地域学部教授 光多 長温 氏

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H18/H18.htm>

#### 平成18年度政策課題共同研究 研究員の再募集

平成18年度政策課題共同研究の研究員募集については、5月10日で締め切りとさせていただきますが、テーマ「豊かな人口減少社会の構築に向けて」については研究員の再募集を行います。テーマに興味・関心がある、または他団体の職員と共同で研究してみたいという方はぜひご参加ください。

#### 今年度のテーマ

豊かな人口減少社会の構築に向けて

大学、NPO、企業などと行政との連携のあり方について（募集終了）

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H18/H18.htm>

研究員追加募集の詳細は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H18/bosyu.htm>

#### eシンキング投稿募集

eシンキングでは、自主研究グループ等の研究紹介、講演会等の案内・レポート、研究誌等の発行、政策関係の書籍レビューなど、政策情報に関する投稿をお待ちしています。

「これは、eシンキングの記事になるかな」ということがありましたら、ぜひ彩の国さいたま人づくり広域連合政策管理部政策研究担当までお問い合わせください。

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)

---

#### [ 政策研究の紹介 ]

#### 研究報告書のご紹介

「行政が変わる！学校が変わる！」（平成14年度）

平成14年4月より完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で特色

ある教育活動を展開し、子供たち一人一人の「生きる力」を育むための「総合的な学習の時間」が創設された。学校を通じて地域の子供たちが、その地域のことを考える絶好の機会ととらえ、行政はどのようにして学校との連携を図り、良き人材の育成に関わっていけるのかを、行政職員と教職員とが共同で研究し、先進事例を踏まえながら行政と学校との在り方について政策提言しています。

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/05/H14/h14gyouseikadai.htm>

平成12年度～17年度の研究報告書については

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/top.htm>

-----  
[ 私の選んだこの1冊 ]

日経スペシャル「ガイアの夜明け」闘う100人

テレビ東京報道局 = 編 日本経済新聞社

2002年4月にテレビ東京系列でスタートした経済ドキュメンタリー番組「日経スペシャル ガイアの夜明け」。“広義な経済”をテーマとし、経済低迷で自信を失った“日本人”へ何らかのメッセージを送る。地球規模で取材展開を図り“10年後のニッポン”を見据えて“復活にかけるニッポン”をヒューマンに描く人気番組です。

本書は、企業の命運を握る経営者、新ビジネスに賭ける起業家、起死回生に挑むサムライたち。厳しい競争の中で奮闘する番組に登場したリーダー100人の肉声を一冊にまとめたものです。

- ・「退屈な人間にはリーダーは務まらない。」  
(カルロス・ゴーン：日産自動車社長)
- ・「漠然とした不安、漫然とした不満足感を取り除く。」  
(春山満：ハンディネットワークインターナショナル社長)
- ・「上司と部下は、川の両岸に分かれている。」  
(原田隆史：天理大学講師)
- ・「クレームは聞きたくはないが、聞いた方が我々にとってはためになる。」  
(石坂信也：ゴルフダイジェスト・オンライン社長)
- ・「勝算はやってみないと分からないが、初めから負けるなんて思っていない。」  
(張富士夫：トヨタ自動車社長)
- ・「前の時代に通用していたことが、今の時代でも通用するというのはおかしい。」  
(田村典彦：静岡県吉田町長)

- ・「公共事業で未来永劫、全員が食べていけるといふ幻想から脱却しないと  
いけない。」  
（田中康夫：長野県知事）
  - ・「自分が思い描いたものを実現していくという、想像の喜びがある。」  
（森稔：森ビル社長）
  - ・「現場にしょっちゅう行かないと、机上の理論になってしまう。」  
（弥富裕治：三菱重工業 風力発電事業グループ）
- 人物の肩書きについては2005年2月末時点のデータで記載しています。

収録されている“名言”の一部を紹介しましたが、それらの内容は、必ずしも前向きなものだけではありません。もちろん希望にあふれた言葉も数多く収録されていますが、一方で日本経済への手厳しい苦言や危機感に満ちた一言など、辛口の“名言”もあえて収録されています。

本書は、普通の文庫本サイズ（厚さもごく普通）です。その中に、100人分の熱い生き様、人生観、未来への展望が詰め込まれているわけです。つまり、一人分が3～4ページほどしかありません。

しかし、「物足りない」という感じがしないのは、収録されている100人の「生き方」が、凝縮されて読み手にぶつけられているからではないでしょうか。本書は、自分の意識改革のみならず、生き方にも元気を与えてくれる1冊でありました。（天）

---

[みてきたゾウ・つたえるゾウ！！]

2006年 聖学院大学都市経営シンポジウム  
「新しい公共と公務員改革を問う」  
（2006年4月19日（水）17:30～20:30 大宮ソニックシティ小ホール）

今回のシンポジウムでは、地方分権や市町村合併等地方自治体を取り巻く制度環境の変化という時代潮流を踏まえ、企業やNPO、ボランティアなどの多様な主体が公共を担うという「新しい公共」と人材資源としての公務員のあり方についてを中心に考察するものであった。内容としては、基調講演、研究会の報告、パネルディスカッションという構成であった。

基調講演では、明治大学大学院長の中邨 章氏より、世界的な公務員の兆候、日本の地方行政、公務員が直面する問題と対応策、という3点について話が合った。

では、現在世界的な流れとして「trust in Government」の落ち込みがあり、

クリーンな政治として世界トップの評価があるフィンランドでさえも、住民アンケートで73%の住民が、EU・中央政府・自治体を信用できないと答えている。これはヨーロッパ全体、またアメリカや発展途上国においても同じ状況であり、また住民に直接サービスを受ける主体となっているのがNGO・NPOで、これらは自治体とは異なり住民から高い信頼度を得ている。日本も諸外国同様公務員に対する不信感が強いが、これは住民が行政に対し高度なサービス水準を期待・希望する強い気持ちの裏返しで、その点では諸外国とは異なり日本の住民は辛口の評価をしていると言えるという説明があった。

では、日本の行政サービスは素晴らしいものがある。特に、各自治体で広報誌（行政だより）を住民に配布、巡回入浴サービスを全国展開、千代田区ではセンサー付電気ポットを高齢者に無料提供し利用状況で安否確認するなど、こうした取組を行っている国は日本のみという例を挙げて見解を述べていた。

では、これからさらに国・自治体の経営資源（人員や財源など）と住民ニーズとのギャップが広がっていく中で、どのように行政が取り組むべきかについて、公務員が求められるもの＝「創意工夫」をしながら、より一層の行政改革（官から民へ）、政策立案・執行・評価への参加、NPOの活用、分権（国 県 市町村 各主体）の推進を挙げられていた。

研究会報告では、聖学院大学の平修久教授より、「＜新しい公共＞を公共サービスの提供から考える」という研究成果報告があった。内容的には昨年度、当広域連合政策研究担当にて行政課題研究として取り組んだ「自治体版市場化テスト」にかなり近い内容で、行政・企業・NPOをはじめとする市民団体など地域の多様な主体が、相互のパートナーシップを構築・強化し、新しい公共を創造するというものであった。

パネルディスカッションで特に印象に残ったのは、上田知事や中邨章先生らが、これからの行政（公務員）のあり方について、「官の信用を生かして民とつなぐ（上田知事）」などサービスの「調整機能」、またサービスが適正に行われているか、法令等を遵守しているかなどをチェックするという「監視機能」の2つが重要であるとの考えが示された。今後の行政のあり方としては、これまでの「主役」から、「コーディネーター」としての役割へとシフトするということであろう。（B）

---

[ 編集後記 ]

皆さんは最近「本」をどれくらい読んでいるのでしょうか。以前行われた文化庁の調査では、1か月に読む本は「1冊～10冊」が最も多いが、その一方で

約4割の人が「まったく読まない」という結果が出たそうです。こうした時代背景の中、豊島区では、区職員に読んでほしい本を職員が推薦 人事課が選定し50冊をリストにまとめ（1冊毎に推薦者が匿名で書いた書評やメッセージが付いている）、今年度から30歳、40歳の誕生日を迎える職員にこのリストを送り始めたそうです。他の職員がどんな内容の本を読んでいるか、そしてどう感じたのかを知ることが、本を読むきっかけを作り、自己啓発等へとつながっていく、当メルマガの「私の選んだこの1冊」の趣旨に近いものがあります。「何の本を読もうかな」と思ったとき、当メルマガが皆さんの参考になればうれしいですね。（B）

---

[ e シンキング ]

ご意見・掲載希望

[ 政策研究の紹介 ] [ 私の選んだこの1冊 ] のコーナーや、セミナー等の参加レポートを募集しています。是非下記までご連絡ください。

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（小澤・江森）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/>

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)